

# 静岡県榛原郡中川根方言のアスペクト

山口幸洋

## I. はじめに

(1) 調査地点：静岡県榛原郡中川根町尾呂久保。

中川根町は11大字に分かれているが、静岡県遠江と駿河の境界となっている大井川の中流にある。昭和37年左岸の遠江側榛原郡旧中川根村と右岸の駿河側志太郡徳山村の合併で町制施行険しい山間を大井川が縫うように流れる複雑な地形のもと、早くからの「川根茶」の産地として知られるが、人口は平成5年8,000人弱過疎化進行中である。方言的にもギラ（特殊アクセント方言）地区を含む4区分され全国的に特筆される地点。ただし調査内容アスペクトに関しては、ほとんど同一と思われる。調査地はギラ地区の西どなりに位置する「水川」の小字で山中の高地にあつて戸数6戸。

調査日時：平成5年8月5日午前10時頃～午後4時頃。

話者：（中川根町尾呂久保）土屋猪三雄（明治45年生）

調査方法：話者自宅での対面による聞き取り。

表記について：「はピッチの上昇，「は下降を表す。例文末尾の\*は、文末形式を代表的なものにとどめたことを示す。

## II. 調査結果

1. （昔はよくトンボ捕りに）行ったもんだね

イッ「タ「ッケ「ナ「ー\*， イッ「ケナ「ー\*

2. （あの頃は）面白かったなあ

オ「モシ「ロカッケナ「ー\*， オ「モシ「ロイッケナ「ー\*

3. （もうちょっとで）落ちるところだった

「オ「チルトコダッケ「ヨ\*

4. （ポケットから財布が）落ちそうだよ 「オ「チソーダ「ヨ\*， 「オ「チソーナ「ヨ\*

5. （財布を）落として

オ「ト「イテ

6. （その続き）困っている

「コ「マッテル

7. （ろうそくが）消えそうだよ [「消える」はケール]

ケ「ーソーナ「ヨ\*

8. （ろうそくの火が）消えようとしている

ケ「ーカカ「ッテル

9. （完全に、今見ている内に）消えた

ケ「ータ， ケ「ーチャッタ▲， ケーチマッタ▲， ケーテシマッタ▲

10. （見に行ったら、もう）消えていたよ

ケ「ーテ「タヨ\*

11. （何本ものろうそくが、時間が経ったので順に）消え始めた

ケ「ーソメタ

12. （その様子を見て）消えて行くなあ

ケ「ーテ「クナ「ー\*

13. （その様子を見て）消えているよ（と、人に言う）

ケ「ーテルヨ\*， ケ「ーチャッテルヨ▲\*， ケ「ーテシマッテルヨ▲\*

▲は東京語「～てしまっている」に対応し、バリエーション間に特別な相違はなく、

話者も「人によっていろいろ言い、自分も時にいろいろ言う」とのみの回答。

14. (全部のろうそくが消えた様子を見て) 消えているよ  
ケ「ーテルヨ＊, ケ「ーチャッテルヨ▲＊, ケーテシマッテルヨ▲＊
15. (沢山のろうそくを, 係りの人が次々と) 消しているよ ケ「ヤイテルヨ＊
16. (その様子を別の人に見に行かせて, 全部消したかどうかを聞く)  
消しているか, 消してしまったか ケ「ヤイタ「カ＊, ケ「ヤイテルカ＊,  
ケ「ヤイチャツタカ▲＊, ケ「ヤイテシマツタカ▲＊
17. (今にも桜が) 散りそうだ チ「リソード
18. (ちらほら) 散り始めた チ「リソメタ
19. (今現に) 散っている チッ「テ「ル
20. (桜を見に行ったら, もう木には花が残っていないくて) 散っている  
チッテル, チッ「チャッテ「ル▲
21. (地面に花びらが) 散っている チッ「テ「ル
22. 今にも降りそうだ フ「リソード
23. (以前の様子. あのときは今にも) 降りそうだったなあ  
フ「リソードダッケナ「ー＊
24. (以前の様子. あのときは実際にはもう) 降っていたよ  
「フ「ッテタ「エ「レ＊, 「フ「ッチャッテタ「エ「レ▲＊  
(注) エレは東京語「ね」に相当する文末助詞, 間投助詞.  
「東海道中膝栗毛」の駿河方言として登場している.
25. (あのときはやがて夜が) 明けようとしていたよ  
「ヨ「ガアケズトシテ「タ「エ「レ＊
26. (来年の今ごろは) 家をたてている (最中だ)  
ウ「チョータ「ッテル, ウ「チャータ「ッテル「ワ「イ
27. (来年の今ごろはすでに) 家をたてているよ (建て終わっている)  
ウ「チョータ「ッテル「ワ「イ, ウ「チョータ「ッチャッテ「ルワ「イ
28. (あの家はよく) 磨いてある ミ「ガイテア「ル
29. (隣の犬が) 鳴いている ナ「イテ「ル
30. (隣の子が) 泣いている = 29に同じ.
31. (子供が) 喧嘩している ケ「ンカーシテ「ル
32. (家に) いるかなあ イ「タカイナ「ー＊
33. (〇〇さん) いるかい イ「タカ＊
34. (ああ) いるよ イ「タヨ＊
35. (噂話で) そういう人もいるよ ソ「ーユーヒト「モイルヨ＊
36. (あなたは今) 何をしていたか 「ナ「ニョーシテタ「ダ＊
37. (私は今金魚を) 見ていたよ 「ミ「テタダ「ヨ＊
38. (金魚が今にも) 死にそうだ シ「ニカカ「ッテル
39. (夕方帰ってみたら, その金魚は) 死んでいたよ シ「ンデ「タヨ＊
40. (本を) 読み始めていた ヨ「ミハジメ「テタ, ヨ「ミカ「カツタ

4 1. 読み始めていたところへ（電話がかかって来た）

ヨ「ミハジメ「テタトコ「イ, ヨ「ミカ「カッテタトコ「イ

4 2. 着くと同時に（昼飯を）食べた

「ツ「クトイッ「シヨニタ「ベタ

4 3. （向こうへ）着くと同時に電話をくれ

「ツ「イタラス「グデンワークリョー\*

4 4. （電話が）鳴り続けている

ナ「リツズケ「テル

4 5. （小学生の子供に）先生は何をしている？

セ「ンセ「ワー, 「ナ「ニョーシテル「ダ\*

4 6. 好きだ

ス「キ「ダ

4 7. 見られているのも知らずに寝ている

ミ「ラレ「テルノモシラ「ッコニネテ「ル,  
～シラズニネテ「ル, ～シラ「ッコナネテ「ル

4 8. （今、運動会が）ある, （運動会を）やっている

「ア「ル, ヤッ「テ「ル

4 9. 降らなくて良かったよ

「フ「ランデ ヨ「カ「ツタヨ\*, 「フ「ランデ 「イ「ローツケヨ\*

「フ「ランデ ヨ「カ「ツケヨ\*

（注）形容詞過去形は「終止形+ツケ」の場合と「未然形+ツケ」の場合とある。

「イー」は地域内で「ヨイ」（昔の言い方）という人もある。

5 0. （病院でかかりつけの先生がこっちへ）来つつある

「ク「ル, 「キ「テル

5 1. （犬がこっちへ）来つつある

「ク「ル, 「キ「テル

5 2. 似ている

ニ「テ「ル

5 3. （一週間も前から遊びに）来ている

「キ「テル

5 4. （あの子は昔から）苦勞していない

ク「ローシ「チャーイン

5 5. （今はあまり）苦勞しないでいる, 苦勞していない

ク「ローシ「ンデル, ク「ローシ「テ「ン

5 6. 酒は売って（は）いるが, タバコは売って（は）いない

サ「キヤーウ「ツチャーイルガ, タ「パーウ「ツチャーイン

5 7. （昔からタバコを）売っている

ウ「ツ「テ「ル

5 8. （今、夜店で）売っている

ウ「ツ「テ「ル

5 9. （もう三回）来ている

「キ「テル

6 0. （いつも）来ている

「キ「テル

6 1. （昔はいつも）来ていた

「キ「テ「タ

6 2. （前に一度）行っている

イ「ツ「テ「ル

6 3. 先に行っておいてくれ

サ「キーイ「ツテ「テ「クリョー\*

6 4. 待っていないさい

「マ「ツッテヨ, 「マ「ツッ「ョー

6 5. （外に）待たせてあるよ

マ「タカ「イ「テ「アルヨ

（注）ここに「使役」の助動詞～カスが認められる。

6 6. （先に）食べておいてくれ

サ「キータ「ベ「トイ「テ「クリョー\*, サ「キータ「ベ「テ「テ「クリョー\*

67. (昔と) 違っている チ「ガッテ「ル
68. (昔は今のと) 違っていた チ「ガッテタ
69. (毎日梅干しを) 食べている 「タ「ベテル
70. (体操を毎朝) している シ「テ「ル
71. 気をつけていて (怪我をした) キョ「ーツ「ケテテ
72. 行ったまま (帰ってこない) イッタサラ
73. 話をしながら (走っている) ハ「ナショ「ーシガツラ
74. (役場へ) 行く途中, (郵便局に) 寄る イ「キガツラ
75. (役場へ) 行く途中, (偶然知り合いに) 会った イ「キア「otta
76. (本を) 読むのを (途中で) やめて (表へ) 出た 「ヨ「ムノ「ー, ヤ「メテデ「タ
77. (その本は) 読んだばかりだ 「ヨ「ンダバッカ「リダ
78. (読もうとしたら, 眼鏡が) 無くなっている ナ「クナ「ッテル
79. (早く食べないと) 無くなるぞ ナ「クナ「ルゾ\*
80. (ここに) 掛けておいた帽子がない 「カ「ケトイタポーシガナ「イ
81. (この本棚に) 並んだ本 ナ「ランダホ「ン, ナ「ランドルホ「ン
82. (この机に) 並べた本 ナ「ラベタホ「ン, ナ「ラベテア「ルホ「ン
83. (今の内にこの仕事を) やっておこうか ヤッ「トカズカ
84. (もう掃除は) やってあるか ヤッ「テア「ルカ\*
85. (孫がおもちゃを) 壊している コ「ワ「イテル
86. (おもちゃがもう) 壊れている コ「ワ「レテル
87. (おもちゃがもう) 壊されている コ「ワサレ「テル
88. (割れたガラスは危ないから) 退けてある ド「カイテア「ル
89. (お礼状は) 書き終わった 「カ「キオワッタ
90. (早く) 書いてしまいなさい 「カ「イチャエ▲\*, 「カ「イチマエ▲\*, 「カ「イテシマエ▲\*
91. (間違った字を) 書いてしまう 「カ「イチャウ▲, 「カ「イチマウ▲, 「カ「イテシマウ▲
92. (ちょっと難しい字を) 書いてみた 「カ「イテミ「タ
93. (おじいさんは) 入院している ニュ「ーインシテ「ル
94. (東京にいる, おじいさんの弟もどこかへ) 入院しているそうだ ニュ「ーインシテ「ルツチャー「エ「レ\*, ニュ「ーインシテ「ルダツチャー「ヨ\*
95. (きっと) 良くなるよ 「ヨ「クナ「ルヨ\*
96. (だんだん) 良くなるよ 「ヨ「クナ「ルヨ\*
97. 年をとると (歯が悪くなる), 年をとってくると~ 「ト「シンオ「ークナルト, 「ト「シン「イ「カクナルト
98. (歯は) 直らなくなる, 直らなくなっていく, 直らなくなってくる ナ「オラ「ンクナ「ル, ナ「オラ「ンクナ「ッテク, ナ「オラ「ンクナ「ッテク「ル

- 99-1. (犬が) 怪我したので (病院へつれていく) 「ケ」ガーシタモ「ンデ」  
 -2. (子供が) 怪我したので～ 「ケ」ガーシタモ「ンデ」  
 -3. (お父さんが) 怪我したので～ 「ケ」ガーシタモ「ンデ」  
 -4. 雨が降ってきたのでやめておく。 「ア」メンフツテキ「タデ, ヤ」メト「ク」  
 100. -1. 「雨が降りつつある」は, a 「降りそうなこと」か, b 「今ぼつぼつ降り始めたこと」か, c 「すでに盛んに降っていること」か …… c  
 -2. 「貯金が増えつつある」は, a 「これから少しずつ増えようとしていること」か, b 「すでにある程度ふえていること」か …… a  
 -3. 「貯金を増やしつつある」は, a 「増やそうと思っていること」か, b 「それがだんだん実現していること」か, c 「すでにかなり増えていること」か …… c  
 101. (去年は今ごろ, ものすごい) 台風が来たね タ「イ」フーガキ「タツケ」ナ「ー」  
 102. (あの辺には) 昔よく花が咲いたのだ ム「カ」シャーヨ「ク」 「ハ」ナガサイケダ「イ」  
 103. (お母さんは) さっきあっちへ行ったよ 「サ」ツッキ アツ「チ」ーイツ「ケ」ヨ

(解説) この地方の方言で注目されるのは過去表現形式における「ツケ」の存在である。「ツケ」はいったいに内省され難いのでヒントを与えることによって引き出されたものであるが, 調査者との自然の対話においては, 絶えず現れているので, 自信を持って聞くことが出来た。話者はインフォーマントとして内省に優れ協力的で申し分がないのであるが, これについての回答状況は必ずしも100%満足の行くものではない。項目「1」における回答がイッタツケとイツケを区別しえていない(実際には区別はあるが, それを口で言い表せない)ところなどがその例である。しかし, そこにこそアスペクトのアスペクトたるゆえんがあるのではないかとも思われる。言語におけるこの部分は「内省に不向きな分野」だと結論したい。なお, 設問101～103は課題にはなかったが, 参考として設けたものである。

この「ツケ」はもともと当方言のどの話者にとっても内省が難しいようで, それには正当な理由があると思われる。特に近年のように共通語の観念が発達し, 文章語の影響が強い日本語社会で, 方言の力が衰退してる現況にあつては, あくまで内省報告\*をのみ重視すること自体に無理があるのではないかと思われる。

\*質問調査も所詮インフォーマント(話者)の内省に頼るほかないという事実を指す。話者が調査者の期待に応える正確に反応してくれれば良し, 仮に正確に応答してくれなくても最終的にはその結果を重視せざるを得ない言語調査のあり方を指す。

(やまぐち こうよう 静岡大学人文学部)